

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議 事務局長 芝 忠
〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80 神奈川中小企業センター 5F
TEL：045-633-5192 FAX：045-633-5194
Email：zan25564@nifty.com http://www.kanagawa-iguren.com

！！創業支援と異業種交流！！

事務局長 芝忠

平成11年(1999)12月、中小企業基本法の36年ぶりの大改正により、新たに創業支援がうたわれると同時に既存中小企業者に対する異業種交流も脚光を浴びた。

これを受け(財)神奈川中小企業センターでは創業支援部署と異業種交流支援部署とを分けたが、どちらかといえばベンチャー・創業支援を重視する体制を組んできた。しかしベンチャー育成研修講座の修了者を対象とした「ベンチャービジネス交流会」が、異業種交流支援部署の支援で運営されたり、公的補助金の獲得支援マニュアルがそれらの活動の経験をもとに発行されたり、創業支援と異業種交流支援策の密接な連携で進められている。特にSBI R(中小企業技術革新制度)による補助金政策は両者の区分を無くしつつある。全国的にも中小企業施策には、創業と異業種交流に共通性が出てきたといえるのではないかと。

そうした中で、去る2月15日横須賀市内で「創業へのチャレンジ」と題するフォーラム、～創業フォーラム in 横須賀～：かながわ創業応援キャラバン(県下5ヶ所で開催され、最後の締めくくり)が開催され、異グ連事務局長としての私がパネルディスカッション「地域資源の活用と創業促進に向けて」のコーディネータに指名されたのも時の流れかなと思った。

フォーラムは最初に早稲田大学の柳孝一教授が「創業へのチャレンジ」の講演で、自らの職場変遷の体験なども含めて既存企業もベンチャーも「革新的かどうか問われている」と強調し、また立地条件としての三浦半島の特徴などにも触れた。

パネルディスカッションでの事例発表では、パソコン支援業務(T社)、GPS・携帯・電波測定・ITS分野のシステム開発(I社)、成功報酬方式による商品開発支援(U社)等で、ソフト系が多かった。一番苦労した点とその解決策、横須賀立地のメリット等の発言を求めたところ、人脈の活用や羽田アクセスの利便性(約40分)、市のベンチャー支援策などが評価されていた。また会場からの質問や意見を募ったところ、女性経営者や地元商工会議所・市関係者も含め、積極的な発言があり大いに盛り上がった。補助金の質問には私が答えたが「申請者と支援者の双方が議論しながら申請書を作成していく」という方法については、事例発表者からも強い関心が寄せられた。

またコーディネータとして自身の意見よりもパネラーやコメンテータ(柳教授、及び月刊アントレ編集スタッフの増田紀彦氏)、会場からの意見を重視した運営が大変好評だった。いずれにしても創業・ベンチャーと異業種交流の垣根が非常に低く感じた半日だった。

以上

2月の異グ連プロジェクトの動き

テクニカルショウヨコハマ 2003 で

盛んな交流がなされました！！

2月6日(木)～8日(土)にパシフィコ横浜にて開催された「テクニカルショウヨコハマ 2003」に、かながわコンソーシアム事業と共に異グ連及び異グ連関連の4グループ(C&S、KIK、東アジア、やまぐち)が出展しました。出展により外部向けの情報発信を行うと同時に、2月6日にはセミナー会場で異業種交流会参加者交流大会「今、異業種交流はチャンスだ！！」、続いて「異業種交流懇親会」を開催し、異業種交流に関心のある来場者及び異グ連メンバー間の交流を図りました。

開催期間中は比較的天候に恵まれたこともあり、来場者数は3日間で33,268名と前年度に比べ約6%増加(昨年度の来場者数は31,357名)しました。そうした中、

例えば異グ連ブースでは配布資料を追加調達しないと間に合わなくなど、各出展ブースとも来場者が多数訪れており、大変好評を頂きました。出展された方々や来場して下さった方々など御協力頂いた方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。(飯島 記)

原稿大募集！！

異グ連ニュースへ貴グループや貴方の原稿をお寄せください。活動状況や経験談がPR出来れば、貴グループや貴方の認知度が高まり、かつ他のグループへの貴重な参考情報になります。

連絡先：芝忠 tel 045-633-5192 fax 045-633-5194

又は小野川利昌 メール onogawa@hkg.odn.ne.jp

異グ連事務局スタッフ増強！！

新メンバーとして加藤文男氏(c&sグループ)が参加されました。さらにメンバーの募集をしています！応募してください。

**新事業の創出を目指す中小企業セミナー&相談会
(補助金とIT活用)が開催されました！！**

去る2月13日(木)に14階ホールにて、約90名の参加者が集い、開催された。主催者は(財)神奈川中小企業センターとかながわIT産業推進協議会で、当日は交流支援課市川課長の司会で進められ、2つのテーマ講演と個別相談会が並行されました。

1:「助成金・補助金の申請書の書き方伝授します」につき、芝忠神奈川異グ連事務局長が講師をした。新事業を起す人達にこそ、手を差し伸べることの重要性があり、また申請書を書くことが自社の企業戦略・技術戦略を作り、見直すことになることと強調した。

「補助金」:政府が直接提供するもので、補助率は2分の1や3分の1のもの。

「助成金」:政府の外郭団体(例、中小企業総合事業団)が出すもので助成率は同上。

「委託費」:上記いずれも出るが、委託費は一部でなく全額出されるもの

の区分についての解説に「なるほど!」と、うなずく人も多かった。更に申請の一番のポイントとして、「開発テーマ」のネーミングの改善による成功例の紹介がありました。その一つ、旧ネーム「新遠隔放送装置の開発」を、新ネーム「鉄道駅等で安全性向上のためにデジタル化による新遠隔放送システム機器の開発」に、というアドバイスでみごと補助金を獲得した例、等々の具体的な講演に会場からは時間をもっと欲しい、との声があがりました。

2:「IT活用でビジネスチャンス」をビジネスコーディネータの斎藤俊明氏が行いました。

ITブームは去ったのか?ボタンの掛け違いでは?など、特に、ITが中小企業にとって扱いにくい存在になっている点について問題提起をされた。そして、「B to B」「B to C」(ここでは、B=Business、C=Consumer)は活発化しているが、「A」が置き去りであることが最大の問題点であること。その改善、つまり、A=Armature 素人に対することが、中小企業にITを身近にする秘訣であるという、きわめて明快な講演でありました。

大勢集まった人は、個別相談に入る人も多く、熱気にあふれた雰囲気は終始しました。(相楽 記)

**都市再生プロジェクトの行動計画が
具体化されつつあります！！**

第3回「関内地域」都市再生プロジェクトは、2月18日(火)中小企業センター5F会議室において開催されました。

当日は「横浜TMO」「大阪船場デジタルタウン」「東京大丸南(東京駅東口沿線)」「神戸旧居留地」「大阪長堀・心斎橋地域」等の“街づくり(案)”をまず概観して、関内に予定されている「(仮称)メディアセンター」の運営事業の提案書については、河津明男リーダーから説明がなされました。

次に芝忠氏から関内地域の機能的再開発へのアイデア集積が、当プロジェクトのメインテーマであるとの再確認がなされ、次回からテーマ別に小グループに別れて、行動計画の方向付けを具体化することとなった。

次回は3月25日(火) a m10:00~12:00です。関心のある方は是非ご参加ください。(織方 記)

**マスコミでも報道されている横浜の
洪福寺松原商店街を訪問しました！！**

昨年末に発足した「商業・流通プロジェクト」は、2月22日(土)横浜市保土ヶ谷区の洪福寺松原商店街を訪問し、伊藤振興組合理事長と巻島副理事長からお話を伺い、商店街の見学を致しました。

<理事長・副理事長のお話の要点は次の通りでした>

- ・当商店街はS27年30店舗で発足し、物の無い時代に安く売ったということで有名になった。

現在は104店舗(組合員90名)で、決して立地環境は良くないが、良いものを安く提供する事で現在も好評を博している。(立地環境:相鉄線天王寺駅400mで16号線が隔てている、スーパーサティ1500㎡が開店、横浜西口商店街1.5km、等々)

(来街者:平日18千人、休日29千人、暮れ8万人/日)

- ・いままで倒産で止めた店は一軒も無い。
- ・同業が多いので、それぞれが工夫・改善を競っている。それはマスメディアが載せたくないような内容が多い。またテレビ等が来た時の受け入れ態勢も整備している。(テレビ4回/年、新聞、業界紙等に無料で載せていただいている)
- ・組合員のほとんどが2代目になっている。組合の青年部をH13年に発足させたが、活発に活動している。
- ・下町風情を残し、台所用の食品が多い事を強みと考えている。

等々ですが、紙面の都合で全部お伝えできないのが残念です。なお理事長の話もすばらしかったが、**青年部のブティック経営者山下美枝子氏のお話を聞く会を、3月25日(火)18:00中小企業センター5Fで開催します。**また4月中旬には元住吉商店街の見学を計画しています。是非皆様のご参加をお待ちしています！！

(プロジェクトメンバー以外のスポット参加も可)

(魚崎、小野川 記)

交流アドバイザー会議で、異業種交流のあり方の意見交換を行ないました！！

去る2月24日(月)(財)中小企業センター5Fで、異グ連交流アドバイザー会議が開かれました(隔月開催)。議題は昨年2月に出された「異グ連10年計画」をベースにした意見交換で、ベテランから新人まで擁するメンバーから活発な意見が出されました。要約してお伝えします。

- ・3年前に「異業種交流センター」から「産業交流センター」にネーミングが変わり、対象は創業・ベンチャー・既存企業の交流、と広範囲の支援となった。1～2年経った現在、もう少し気安く訪れ、自由闊達な意見交換を行なう環境を醸成できるといいと思う。
- ・コンソーシアム事業は特定者にサービスが集中しないよう原則1年限定でテーマを公募している、ただプロジェクトは事業化が目的のため、数年にわたった継続支援も必要であり、異グ連がこれを補完し支援を継続させる事が考えられる。
- ・県の外郭団体である(財)神奈川県中小企業センターはその活動に地域性が否めないが、神奈川異グ連は地域・県域に拘泥しない広域的な活動をしていきたい。等々が出された。

(小野川 記)

異業種交流専門家育成講座

異業種交流スキルアップ及びプロの育成の一環として、第一線でご活躍のコーディネーター及び経験豊富なベテランの方に毎回登場願ひ、実績・経験に基づいた持論を展開いただきます。



異業種活動とコーディネータの役割

ビジネスコーディネータ 瀧澤 清

私自身は、異業種活動と本格的に係ったのはセンターのコーディネータを委嘱されてからで、まだ日も浅く経験不足ではあり、異業種活動についての考えは、大先輩の八幡、根岸両先生がすでにお書きになられておられるので、そちらに譲ることとし、コーディネータを議論する参考になればと思い、私自身がコーディネータとして、何をすべきか、何が出来るのか述べてみたい。

異業種交流の基本は、人と人の交流と思われその交流の結果が、自社の経営に資する情報の入手であり、さらに発展しビジネスチャンスの形成に繋がると考えている。そのような中で我々がかかわる形態としては、異業種活動全般への協力、グループ活動への支援、参加する個々の企業への支援と見ることができ内容的にも多岐にわたっている。

具体的には、会の運営に対して体力も含めた知見の提供も必要であり、また、グループ活動に対して事務局的な役割もあろう。さらには、個別企業の相談にのるケースもある。このような活動を支援するとき求められるものとしては、活動のスムーズな展開に必要な、適切な情報の提供であり、企業が不足しがちな外部経営資源に対する仲介も重要な要素と考えられる。そして何より必要なことは、そのような交流を容易にする場の提供が大切ではないかと考えている。

しかし、コーディネータ1人ができることは能力に差こそあれ、言うまでもなく限界があり複数での対応が不可欠になる。特に、昨今のように不透明な時代で先を見極めることの困難ななかでは、道を誤らないためにも重要な手法ではないか。往々にして先生といわれるあまり、必要なリーダーシップは否定はしないが、自分がリードして行くのだとの意識が強く出てしまうことは心すべきことと思う。

私自身は技術屋として、中小企業の方々の技術開発の支援をしてきた経験からすると、コーディネータとしての姿勢としては、良き話し相手になることが重要ではないか、そして、「知らないことは知らない」と素直に言うことが、信頼関係を構築することになり、以後の支援活動をスムーズに展開できるのではないかと考えている。

いささか硬い話をしてしまいましたが、私自身、あまり勉強をすることが好きな人間ではないが、芝忠ともども「野毛夜間大学」の教授という名誉ある？称号をいただいている

ことから想像されるとおり、ノミネーションをベースに人的ネットワークを構築しております。それも一つの手法ではありますが、人間としての信頼がコーディネータ活動の基本と考えていることを申し上げて終わりにします。